

<p>体力向上プログラム 等活用による 体育科の充実</p>	<p>○体力向上の結果をによる体力向上プログラムを踏まえた体育科の授業やスポーツタイムの充実を図る。習得のために山之口小サーキットの活用を推進する。</p> <p>○健康・安全に関わる基本的な生活習慣の定着のために、家庭と連携して「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発に努める。</p>	<p>体力向上のA判定児童が19名で全体の7.2%であった。昨年度より伸びた項目は男子が21項目女子が23項目あり、サーキットトレーニングの効果が見られた。今年度は、新たに屋内サーキットトレーニング計画を作成し、全学年で取り組んだ。今後は、更に内容の改善について検討したい。</p>	<p>・家庭での生活習慣に関する状況は、朝食の摂取状況など、今ままで以上実態をつかんでいくことが大切である。それに基づいて手立てを講じてほしい。</p> <p>・ゲームの使用状況についても把握していくことが大切である。ゲームやタブレットの影響など心配携帯電話等の使用について保護者への啓発に努めてほしい。</p>
<p>健康や安全に 関わる基本的な 生活習慣の定着</p>	<p>○自分の健康に対する関心を高めるために、健康診断後の治療率の向上に努める。</p> <p>○食に対する望ましい理解を深めるために「子どもが作る弁当の日」の実践の充実を努める。</p>	<p>むし歯の治療率は約6.5%で昨年度を上回った。保健便りのほか、対象者に手紙を出したり、学校保健委員会で歯に関する講演会を実施したり、機会あることに啓発を続けた結果であらう。しかし、治療が終わらない児童が固定化しているので、今後も更に個別の対応に努めていく。</p>	<p>3</p>
<p>健全な生活習慣を 活用した健康な 生活習慣の定着</p>	<p>○食に対する望ましい理解を深めるために「子どもが作る弁当の日」の実践の充実を努める。</p>	<p>弁当の日を毎学期1回、遠足の日に実施しており、親子で楽しんで取り組んでいる。食育について家庭で話題にしていくと回答し、食育に関する講演会を地区全体で実施した。今後も更に、各家庭での実践へ広げよう啓発に努める。</p>	<p>3</p>
<p>コミュニケーション の整備・充実</p>	<p>○学校と地域(住民)のつながりを強めるために、コミュニケーション制を活用し、学習支援・環境整備等がボランティアを充実させる。</p>	<p>児童の約9割、教師の約8割が地域住民やボランティアと楽しく活動できたと捉えている。特に本年度は、学校運営協議会・環境整備ボランティアの活用が今まで以上に図られた。また、オービンスクールの実施形態についても改善するなど大きな成果を上げることができた。</p>	<p>・学習支援ボランティアとして紹介した方が、学校とつながり、自分力を生かすことができている。今後、この取組を継続していただきたい。</p> <p>・オービンスクールに参加して大変よかつた。地域と学校の距離が近くなったと感じた。また、子ども共にも、通いやすくなった。今後の実態がよくなることを期待している。今後は、自然体験にも積極的に取り組むことが大切である。</p>
<p>P.T.A活動・ 家庭教育学級の 活性化</p>	<p>○家庭の教育力向上や、生涯学習機会提供のために、P.T.A各専門部活動の活性化に努める。</p>	<p>家庭教育学級を9回実施した。また、各学年で親子レクリエーションを実施し、ふれあいの機会の充実を努めた。職員もP.T.A専門部の一員として、各種の取組に協力した。参観日の懇談会への参加者が少ないので、参加意識の醸成に努める。</p>	<p>3</p>
<p>一貫性・系統 性・継続性 のある 連携教育</p>	<p>○保幼小中の連携強化による一貫性・系統性・継続性のある指導の実現</p>	<p>小中一貫教育山之口プロジェクトでは、「知育」「徳育」「体育」「ふるさと教育」の各部会に分かれて、漢字・計算テストを実施したり、挨拶運動をしたりするなど、小中の連携が図られた。保幼小においても、交流会を計画するなど、小1キヤッチに対する対策を図っている。</p>	<p>3</p>
<p>各種メディア を活用した 学校 情報の発信</p>	<p>○学校の教育方針や教育活動への理解を促進するために、文書・メール・WEB・SNS等各種メディアの活用を努める。</p>	<p>学校フェイスブックやホームページを活用して、運動会や収穫祭などの学校行事を中心とした教育活動の様子を伝えることができた。安心・安全メールを活用し、速効性のある情報発信に努めた。保護者や地域の方からの反応も良く、学校への理解を深めることができた。</p>	<p>3</p>

たくましい体づくり

開かれた学校づくり

平成27年度 都城市立山之口小学校 学校関係者評価報告書

評価 4:十分に達成 3:おおむね達成 2:努力を要する 1:取組内容の修正・変更を要する。

項目	重点指導項目	方策・手立て	成果と課題	総合	学校関係者評価委員の意見	委員の評価
豊かな心の育成	道徳教育改訂の動向を踏まえた研修の充実	○特別の教科「道徳」の実施を見据えた研修を実施し本格実施に備える。	夏季休業中の研修会で県の道徳教育研修会を受けて、最新の情報をもとに充実した研修会を実施し、教職員の資質向上に努めてきた。また、その後の道徳授業を行ったことにより、保護者の理解が高まってきた。	3	・道徳について研修をあらためて、深めたい。今後、これら変りつつある道徳の方向性がよくわかるよう、研修が大切である。	3
	児童相互の望ましい人間関係の醸成	○望ましい人間関係の醸成を図るために、児童の人間関係の把握等、積極的な生徒指導を推進する。	教職員の約8割、保護者や児童の約9割が友達と仲良く、親切にできていると考えているが、まだ不十分な様子も見られる。児童や保護者へのアンケートなどを通して、不安や悩み等を把握し、教育相談を行っていき、また、いじめ不登校対策委員会等で職員間の共通理解を図り、問題解決に努めた。問題行動に対する組織的な対応と早期解決に努めてきた。今後も、早期発見、早期解決に努めていく。	3	・道徳について研修をあらためて、深めたい。今後、これら変りつつある道徳の方向性がよくわかるよう、研修が大切である。	3
	学習習慣と学習のきまりの指導の徹底	○児童の主体的な学習を実現するため、家庭学習を含む望ましい学習習慣を定着させる。	教職員の約8割、児童の約9割が授業中は熱心に学習に取り組むようになってきたと考えている。「授業中の7つの約束」をもとに、各学級で発達段階に合わせた指導を継続してきている。今後、学習用具の準備など、十分ではない項目もあるため、自分で考えて行動できるように指導を継続していく。	3	・道徳について研修をあらためて、深めたい。今後、これら変りつつある道徳の方向性がよくわかるよう、研修が大切である。	3
確かな学力の定着	主題研究の充実と実践化	○基礎的・基本的な内容の習得と活用する力の育成のために研修を充実し、教科指導力の向上に努める。させるため、○児童の活用する力を向上させるため、学校生活の中で発言・発表する機会を豊富に設ける。	児童が意欲的に学習に取り組む、お互いに考えを高め合う算数科の学習指導について研修を行った。日頃の授業や研究授業を通して授業改善にも取り組んだ。次年度の研究公開に向けて取組を推進する。	3	・道徳について研修をあらためて、深めたい。今後、これら変りつつある道徳の方向性がよくわかるよう、研修が大切である。	3
	家庭学習の充実と読書の読書の充実	○児童の読書を充実させるために、家庭と連携し読書の啓発に努める。	「目指せ100冊」を呼びかけ、2月末までに約36%の児童が達成できた。また、家族読書週間を設定したことで、児童だけでなく、保護者の読書への関心を高めることができた。しかし、家庭での読書の増加に努めていく。	3	・道徳について研修をあらためて、深めたい。今後、これら変りつつある道徳の方向性がよくわかるよう、研修が大切である。	3
	基礎的学力向上のための家庭と学校の連携	○基礎的・基本的な内容の習熟を図り、家庭学習の習慣化を推進するため、「家庭学習の5つの約束」に関する周知徹底を図り、家庭との連携を強化する。	基礎的な学力の定着については、教職員の約8割、保護者の約7割が身に付いてきたと考えているが、まだまだ伸ばすことができていない。今後、繰り返し指導に努めていく。家庭学習については、「家庭学習の5つの約束」を家庭訪問の際に配付したりして、ほぼ身に付いてきた。しかし、習慣化できていない児童も見られる。今後も、家庭学習の時間や取組内容について実態把握に努め、家庭と一体となって指導を継続していく。	3	・道徳について研修をあらためて、深めたい。今後、これら変りつつある道徳の方向性がよくわかるよう、研修が大切である。	3